

三遠南信地域の港 三河港の現状 (1)

「三遠南信地域の港」とも言える三河港について、港湾管理者である愛知県三河港務所から情報提供をいただいたので、紹介する。海なし県の当地域において「港」は馴染の薄いものであるので、基本的なところから始めることとしたい。

1. 三河港とは

三河港は、愛知県の三河湾に位置する西浦（蒲郡市）、蒲郡（同）、豊橋（豊橋市）、田原（田原市）の4港が、昭和37年5月に統合され、「三河港」となったものである。

昭和39年4月には重要港湾に指定されている。

重要港湾 国際戦略港湾、国際拠点港湾以外の港湾で、海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重要な関係を有する港湾として政令で定めるもの

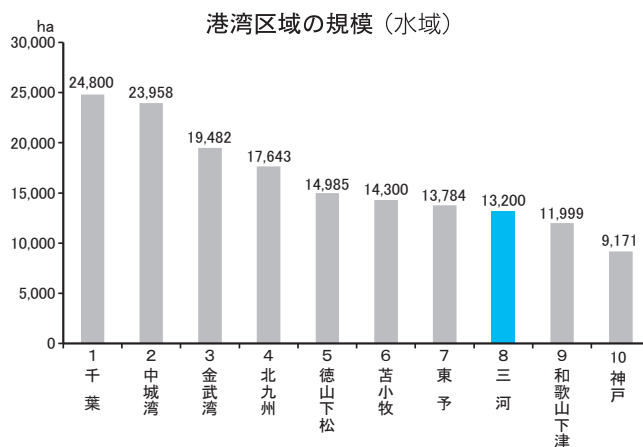
国際戦略港湾 国際海上コンテナ運送に係る国際海上貨物輸送網の拠点となり、国際海上貨物輸送網と国内貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾で、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な港湾として政令で定めるもの

国際拠点港湾 国際戦略港湾以外の港湾で、国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾として政令で定めるもの

(以上 港湾法第2条)

港湾区域（水域）は、田原地区の白磯と蒲郡市西浦の御前崎を結ぶ線で区切られる132平方キロメートルで、全国で第8位の規模となる。

これに対し、港湾地区（陸域）は、三河港は5.5平方キロメートルで、第28位となっている。



(国土交通省 HP 2020年4月1日現在)

三河港概要図



(愛知県三河港務所 HP)

2. 三河港の全国での位置は

次に、国土交通省公表データにより、三河港の全国の港湾での位置を確認しておく。

(1) 入港船舶数

2018年の入港船舶数は、13,939隻で全国第66位の規模。ランキングを見ると、内航運輸が発達している瀬戸内地域や西日本の港湾が上位を占めている。

これを、外航・内航別にすると、三河港は外航は1,152隻で22位であるが、内航は12,787隻で74位となっている。当港が外航船の出入りの多い港であることが判る。

(2) 港湾取扱貨物量

取扱貨物量（2018年、輸出・輸入・内貿・内航フェリー計）は、三河港は2,353万トンで第33位となっている。

(3) 貿易額

貨物取扱量に対し、貿易額（2019年、輸出・輸入計）は、三河港は33,691億円と全国第9位と上位に入ってくる。うち、輸出額は25,424億円で第7位であるが、輸入額は8,267億円で第18位となる。

(4) コンテナ取扱量

国が戦略的課題として取り組んでいるコンテナ輸送については、2019年速報値のコンテナ取扱貨物量（外貿・内貿計）は、三河港は35,778 TEU（ISO規格コンテナの20フィートコンテナに換算したコンテナ数量）で第50位となっている。

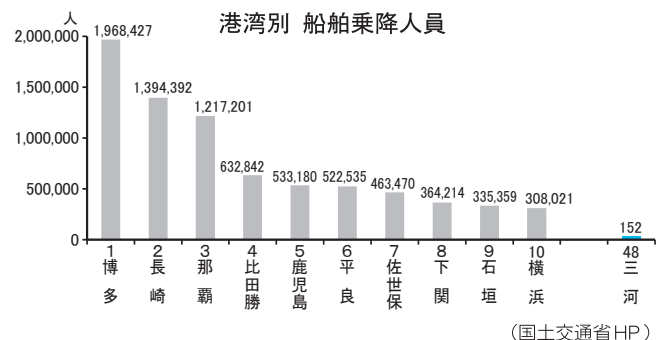
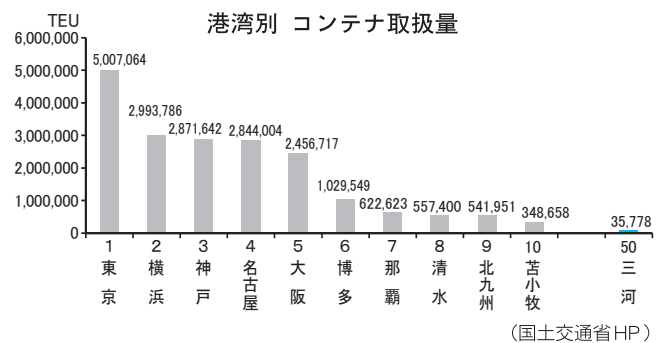
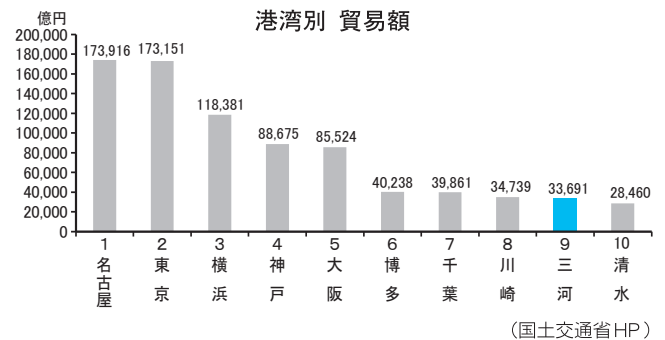
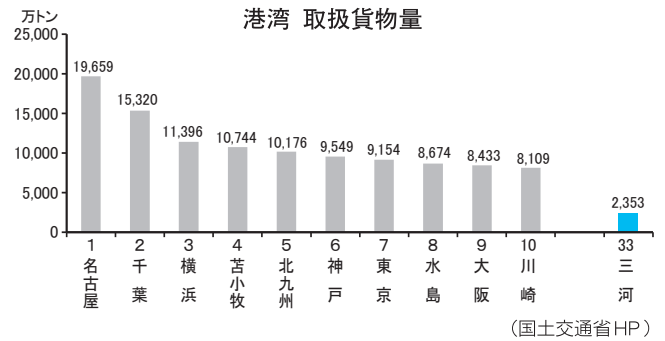
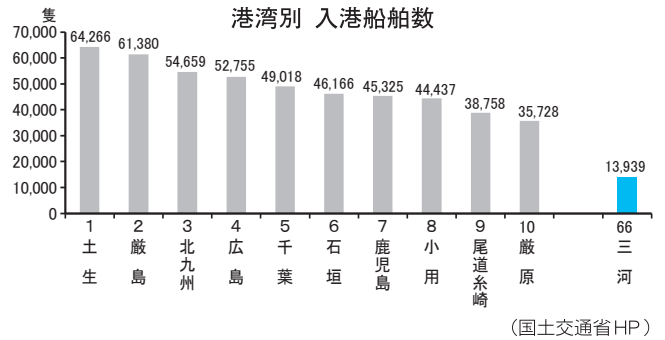
(5) 船舶乗降人員

2018年の船舶乗降人員（乗込・上陸計）は、三河港は152人で第48位。内訳は乗込152人で、上陸はゼロである。

3. 三河港の特徴

国交省データで見る三河港は、入港船舶数や取扱貨物量に比して貿易額が全国有数の地位を占めている、即ち「稼ぐ力が大きい港湾」と言える。反面、コンテナ輸送対応に余地を残している。三河港には人の動きが少ない、と言えそうである。

以後、三河港務所提供のデータにより見ていくこととする。



(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)